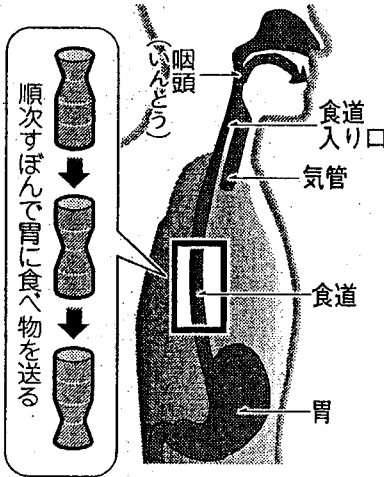


食べ物詰まらない人工食道

末期の食道がん患者が食物の進行を抑えるという人工をのみ込めるようにすると、食道を、東北大加齢医学研究時に、患部を温めることで、所の山家智之教授(人工臓器

開発した人工食道の仕組み



東北大グループが開発

学などのグループが二十四日までに開発した。これまでの人工食道は、がんで食道がふさがらないように患部の内側に金属製パイプ(ステント)を挿入するなどしていたが、食べ物詰まるトラブルが起きていた。開発した人工食道は蠕動運動の機能を持ち、これを回避できるとしている。切開手術が不要で、

内側を高分子ケルで覆い、食べ物を通りやすくし、電気を使った温熱療法の機能も付加、がんの進展を抑制することも可能という。

温熱でがん抑制も

内視鏡を使って取り付ける。新開発の人工食道は、電気を流した部分の直径がすぼみ、不通になると元の状態に戻る形状記憶合金を使用。順次電気を流すことで食べ物を胃へと送り出す仕組み。電気は体外装置を操作して発生させる。